

■「効果の見える治水事業」

愛媛県 串地区（西宇和郡伊方町串）の治水事業 「串地区地すべり対策事業」

かん としひこ

愛媛県八幡浜土木事務所長 菅 敏彦



串地区（愛媛県西宇和郡伊方町）は、四国の最西端、佐田岬半島の瀬戸内海に面した北西側の斜面に位置しています。

佐田岬半島は延長 40km、幅 4～5km の細長い半島で、北側は瀬戸内海（伊予灘）に面してリアス式海岸を形成しており、南側は宇和海（三崎灘）に面してなだらかな白砂の連なる海岸となっています。半島全体にわたって平坦部は少なく、谷地形末端部の扇状地形、あるいは旧崩壊地の緩斜面に集落が発達するほかは、標高約 400m を最高点とする山地形が発達しています。

この地域は、中央構造線と御荷鉾構造線にはさまれた三波川帯に属し、大部分は塩基性片岩が分布しており、地すべり危険箇所は 64 箇所（伊方町）と非常に多く、脆弱な地形・地質構造となっています。

串地区地すべり防止区域は、昭和 36 年に指定を受け、同年に対策を実施して以来、目立った変状がなかったため監視を続けてきたところですが、近年になり地すべり活動が進行し随所に変状が確認されたことから、平成 17 年度に地すべり対策事業を再開しました。地下水位が高く地盤が不安定であるため、地すべり活動抑制のための地下水排除工（集水井工、横ボーリング工）を実施した結果、変動が収束したことから平成 22 年度に概成しています。

【串地区の事業概要】

事業名	地すべり対策事業
事業費	194,300 千円
事業期間	平成 17～22 年度
保全対象	人家 122 戸
工事内容	集水井工 N=2 基 横ボーリング工 L=1335m



防災対策への取り組み



愛媛県伊方町長 山下 和彦

伊方町は四国最西端に長くのびる全長約 40km、日本一細長い佐田岬半島にあり、温暖な気候のもと急峻な斜面には段々畑が広がり柑橘栽培を主体とした農業と、半島部特有のリアス式海岸の入江にある良港を拠点とし瀬戸内海と宇和海に広がる良好な漁場を資源とした漁業が盛んな、実り豊かな美しい自然に恵まれた風光明媚な地域です。

また、半島の頂上部を縦断する国道 197 号（通称メロディーライン）の開通により、町内交流及び都市部へのアクセスの飛躍的な向上が図られ、地域の活性と発展をしてきました。

自然との共存により健康的な生活を営む反面、急峻な斜面や少ない平地部においても背後に急斜面が存在するなど、土砂災害発生危険性の高い場所に集落が形成されている事も事実であります。

近年においては、人的被害を伴うような大規模な災害はないものの、土砂災害発生危険性を常に感じながらの日常を過ごしており、また、近い将来発生が確実と言われる南海・東南海地震への不安が高まる中、あらゆる災害に備えた防災体制を構築することが緊急の課題であり、現在、ハードとソフトの両面において一体的な対策と効果の発揮を目指し、整備・支援の推進に積極的な取り組みを行っております。

特に、ハード対策として避難路の確保、ソフト対策として自主防災組織の構築に取り組んでおり、避難路の確保については、町内全 54 集落において一時避難場所、及び、そこに至る避難ルートを選定し、避難時に支障となっている事項を地元住民とともに調査を行い、調査結果が得られた箇所より順次、対策工事を実施しており、本年 9 月末時点までの成果として 30 地区において、路面整備（スロープ・階段等の整備）L=900m・防護柵整備（手摺・フェンス等の設置）L=3,700m等を実施し、集落の約 6 割の対策が完了しており、今年度中の全集落の整備完了を目指し現在、全町的に対策を行っております。

また、土砂災害の発生しやすい地形である本町では、大規模災害が発生すれば、道路が寸断され、消防署等の防災関係機関の援助が遅れることが想定されます。

そうした時に、地域でお互いが助け合うという仕組みが重要となることから、自主防災組織の結成と育成に取り組んで参りました。

現在、本町の自主防災組織の結成率は、100%を達成しているものの、組織間の格差は依然として大きいものがあります。

町では、地域防災力の更なる向上を図るため、今後 3 年間で 60 名の防災士の養成を目指すとともに、年一回以上の防災訓練の実施を推進し、その活動に対する支援助成を行うなど、自主防災組織の活性化と育成に力を入れているところです。

災害対策は、行政と地域が一体となり連携することで大きな効果を得ることが出来るものだと思います。今後も引き続き地域の自主防災組織をはじめ地区住民の皆様のご協力をいただき、安全・安心の町づくりを進めてまいります。



伊方町総合防災訓練（実施状況）



避難路整備状況